

係の仕事に取り組むときに (3年)

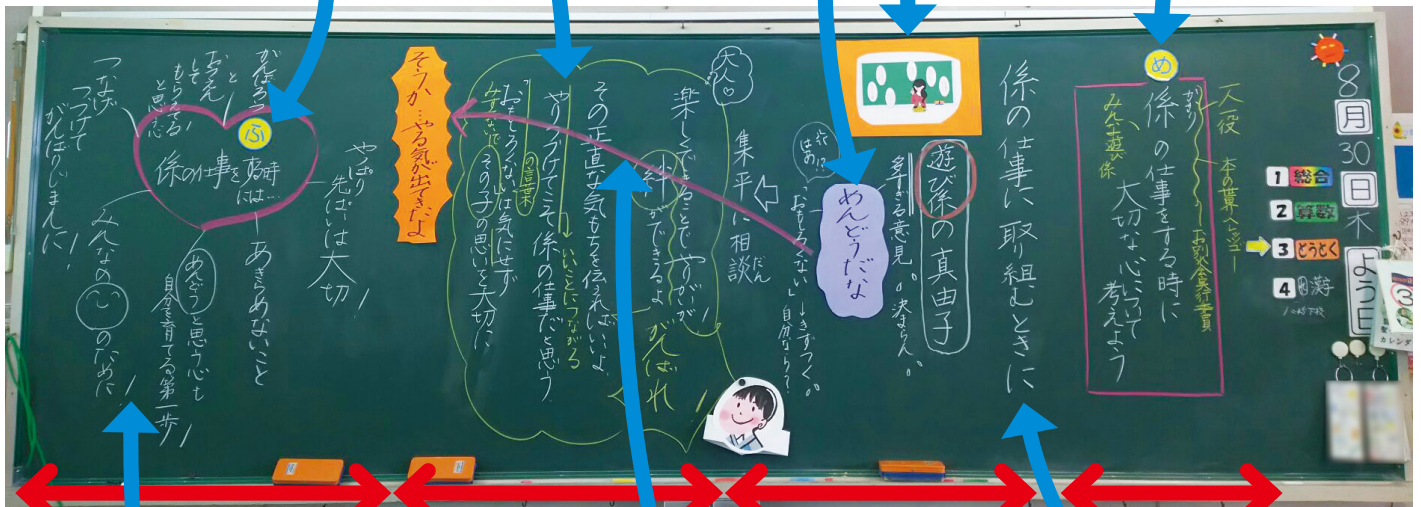
板書の工夫

あらかじめ、授業の中で重要な場面の挿絵や言葉を準備しておく。子どもたちは、「貼る」という行為だけでも注目する。特に挿絵を提示すると、それだけでその場面を想起できる。

「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号(アイコン)として提示できるものを用意するとよい。

子どもたちが特に大切だと意識した言葉は、傍線を引くなどして目立つようにする。

「振り返り」のアイコン。



教材名の提示。

登場人物の気持ちが大きく変化していることを、視覚的にもわかりやすく示す。思考のサポートとなるよう、上向きの感情への変化を示す矢印とした。

意図的に指名をした子どもの考えを板書する。答えは一つではなく、多様な考え方があることが視覚的にもわかるように工夫する。



板書の流れ

- 1 「めあて」は初めに提示する。教科書のとびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で「めあて」を活用し、「今日は、係の仕事をするとき大切な心について考えよう」と呼びかけ、「みんなは、どんな係をしているかな」と、自分の係の仕事を想起させる。【3～4分】
- 2 教科書を範読して、教材の道徳的な問題場面を確認する。登場人物が置かれた状況をしっかりと押さえ、子どもたちが考え始める共通の土台をつくる。【7分】
- 3 授業では、教師が演じる「真由子」が、子どもが演じる「周平」に相談するという役割演技に取り組む。演じる子どもたちから出る言葉を板書する。4人ほど演じたところで、演じているのを見ていた子どもといっしょに、周平の言葉には、どんな思いが込められているのかを話し合う。【21分】
- 4 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を再確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。ワークシートに記入する時間を子どもたちと相談し（だいたい7～8分）、机間指導をしながら、意図的指名をする子を決めておく。交流の中で出る子どもたちの発言は、その思いをゆがめないように、キーワードで板書する。振り返りは、子どもが、本時で学んだことを自分なりの言葉でまとめ、友達の発表を聞くことで、多様な考えがあることを知る大切な時間である。必ず時間を確保し、考えが深められるようにしたい。【12分】